産出に取り入れられない「気づき」

生教材を用いた口頭表現クラスの事例をもとに

舩橋瑞貴（群馬大学）funahashi@gunma-u.ac.jp
平田未季（北海道大学）mihirata@oia.hokudai.ac.jp

本発表は，学術研究助成基金助成基盤研究 (S)「非流暢な発話パターンに関する学際的・実証的 研究」(課題番号 :20H05630，研究代表者 : 定延利之) の研究成果の一部です .

1 はじめに

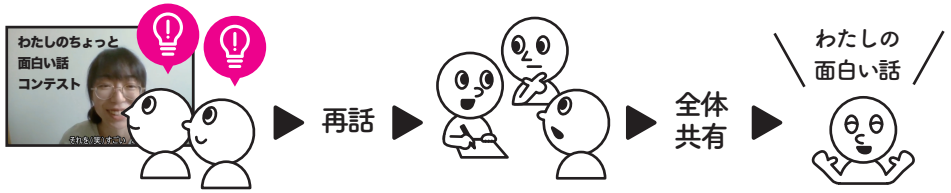
学習者が実際の言語使用データから得た気づきを産出につなげる授業デザインを目指し、その基礎的な資料として、実践の内容とその結果を共有する

- 習得には気づきが重要（Schmidt 1990）
- 気づきのうち意味内容と言語形式の関係が理解されたものがインテイクに（Gass1997）

LA 研究における「気づきを起こす方法についての共通原則」（村岡 2012）

2 教育実践

A 大学 5 名 • B 大学 第 1 学期 12 名 • B 大学 第 2 学期 13 名
JLPT N2 相当の口頭表現クラスで実施



生教材の動画視聴 ▶ 再話 ▶ 気づきを共有＋記入 ▶ 全体共有 ▶ 産出

- 実際の言語使用データを使用
- 生徒主体の発見型の学習
- 協働学習
- 学習者による内省・比較・分析・観察

3.1 気づきのカテゴライズ

非言語使用
- 表情
- ジェスチャー
- 視線
- 声の大きさなど

談話構造
- 伏線やオチの提示法
- 話の進め方
- 盛り上げ方など

言語使用
- 中途終了発話文（例：～て、～ですけど）
- 倒置
- オノマトペ
- フィラー（例：えー、なんか、まあ）
- 終助詞（例：～よ、～ね）
- 接続詞（例：で、それで）
- セリフ発話など

3.2 気づきの異なりによる産出の違い

	中途終了発話		倒置		オノマトペ	
	気づき	産出	気づき	産出	気づき	産出
A 大学	－	9.2%	＋	1.0%	－	1 件
B 大学 第 1 学期	＋	35.7%	－	1.2%	＋	7 件
B 大学 第 2 学期	＋	47.1%	－	0.7%	＋	6 件

談話内の位置や機能に関する言及
「面白い話をするときは，なるべくまるでおわらすような表現ではなく，『～んですけど』『～で』『～て』などの文末表現を使うと自然に聞こえる」（B 大学の学生）、「面白い話の終わりに近づいている時以外は なるべくです・ますを使うのを避けたほうがいい」（B 大学の学生）

理解された気づき

存在のみの指摘

3.3 枠組みの異なる活動における産出

㊀もしろい話
わたしの今週

学習者	文数 ㊀	文数 わ	終助詞 ㊀	終助詞 わ	接続詞「で」 ㊀	接続詞「で」 わ	接続詞 ㊀	接続詞 わ
1	30	30	3	3	10	6	4	5
2	23	25	3	0	2	4	4	3
3	17	26	3	0	1	0	0	7
4	15	13	3	1	2	1	3	6
5	13	19	6	0	1	0	3	3

減少傾向　「で」減少傾向・「そして」など出現多数

ある枠組みで理解された気づきは、別の枠組みでの産出で転用されにくい

今後の課題：複数の言語使用環境への転移の促し